

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.98

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

<エッセイ>

### 外国語教育とオンライン授業

松岡博信

新型コロナ禍で本年度の春の例会は中止となり、学会員にとってはまことに寂しい2020年度となっている。このような中、ITCの恩恵を大いに私たちは受けているように思う。その1例がオンライン授業である。

私が所属する安田女子大学は4月20日にはオンライン授業がスタートし、そして、既に5月末で早くも終わっている。したがって、実際にオンラインで授業をしたのは、40日ほどである。必要にかられて始まったオンライン授業であるが、不思議なことに、対面できないという不自由な面とは裏腹に、その良さも十分に感じる事ができた。

私が担当する授業の中に「ことばと社会」という教養科目がある。履修生は80名を超える。この科目では、従来から作成していたパワーポイントに音声吹き込んでビデオ化し、Google Classroomというオンライン授業システム上でアップロードして、授業の前半と後半に分けて視聴させ、学生はそれを観た後でWordファイルに重要事項を記入する。パワーポイントでは表示した情報の多くはファイルでは空所となっている。記入と言っても、実際は自宅にいる受講生はビデオを繰り返し視聴し、Wordファイルに打ち込み、授業支援システムであるMoodleに提出するのである。

オンライン授業を実践して思うことは、先ずは時間管理の力が身についたことである。十分に時間を考慮して授業の教材消化を考えるようになった。メリハリがはっきりした。学生もその点は評価してくれている。そして、教材はずっとシステム上にあるので、いつでも視聴できる。教材や課題の配布と回収も実に簡単だ。したがって、対面授業ではしなかった授業の感想を毎回書かせている。これが自分の授業を見直す大変良いフィードバックになる。学生も対面授業と異なり、率直に意見を書きやすい。直接的に褒められたり、問題点を指摘されたり、その点ではかえって教師と学生の間は有機的になったとも言える。

この「ことばと社会」では、昨年5月に中国・四国支部例会(会場:安田女子大学)で発表した「外来語の系譜」を一部で用いた。学生たちは日ごろ使っている外来語に非英語由来であるものが如何に多いかに驚き、オランダ語、ポルトガル語、フランス語、ドイツ語などの繋がりがどれほど強いかを認識してくれたようである。Norman Conquest以来、英語におけるフランス語からの影響は膨大なものであり、それは借入語彙のみならず、西ゲルマン語群という同じ語群に属し、言語学上英語に最も近いドイツ語やオランダ語がいまだに有している名詞の屈折変化のほとんどを英語が消失したというに事実に見えている。英語の名詞相当語句における屈折変化は今や代名詞にのみ名残を残すだけである。

私は英語英米文学科で教職科目である英語科教育法を担当しているが、第1章では幕末からの英学史を必ず取り上げる。今年度はオンライン授業のおかげで、じっくりと印欧祖語から始めて、日本語におけるヨーロッパからの外来語をたくさん取り扱う事ができた。このコロナ禍のオンライン授業が、凶らずも、現在私たちの周りに溢れている外来語を英語教育においてどう扱うべきかの示唆を与えてくれたことに感謝している。

(副支部長/安田女子大学)

## 中国・四国支部ニュース

### >> 令和2年度支部総会

令和2年度支部総会は電子メール（または郵便）によって以下の議題について審議を行いました（5月30日～6月15日）。いずれも原案通り承認されました。

1. 令和元年度活動報告
2. 令和元年度会計報告・会計監査報告
3. 支部総会・研究例会規程について
4. 令和2年度活動計画

#### 1. 令和元年度活動報告

##### (1) 支部総会

2019（令和元）年度支部総会は、2019年5月25日（土）13時20分より、第1回研究例会に先立って行われた。議長として田口 純会員を選出し、以下の議題について審議を行い、すべて原案通り承認された。

1. 平成30年度活動報告（事務局）
2. 平成30年度会計報告（会計担当理事）
3. 平成30年度会計監査報告（会計監査）
4. 令和元・2年度役員
5. 令和元年度活動計画（事務局）

##### (2) 第1回（通算80回）支部研究例会

日時：2019年5月25日（土）14:00～

会場：安田女子大学1号館 1404教室  
（広島市安佐南区安東6-13-1）

開会行事（14:00～14:05）

支部長挨拶 竹中 龍範（元 香川大学）

研究発表①（14:05～15:15）

司会 保坂 芳男（拓殖大学）

「二羽の不死鳥：河合 茂と永原敏夫」

田中 正道（広島大学名誉教授）

研究発表②（15:30～16:40）

司会 河村 和也（県立広島大学）

「外来語の系譜」 松岡 博信（安田女子大学）

閉会行事（16:45～16:55）

副支部長挨拶 馬本 勉（県立広島大学）

懇親会（17:30～）とり楽 毘沙門店にて

##### (3) 第2回（通算81回）支部研究例会

日時：2019年12月14日（土）13:00～

会場：津山洋学資料館 GENPO ホール  
（岡山県津山市西新町5）

開会行事（13:00～13:10）

支部長挨拶 竹中 龍範（元 香川大学）

研究発表(1)（13:10～14:00）

司会 河村 和也（県立広島大学）

『英和对訳袖珍辞書』復刻に向けて：箕作貞一郎との関わりを中心に

山田 克惟（宗八）（山田共学道場）

研究発表(2)（14:10～15:00）

司会 竹中 龍範（元 香川大学）

「幕末から明治初年の津山における英語学習：宇田川興齋・準一の活動から」

田中 美穂（津山洋学資料館）

閉会行事（15:00～15:10）

副支部長挨拶 馬本 勉（県立広島大学）

津山洋学資料館 館内見学（閉会后～16:30）

（冬季企画展「津山藩の英学事始」開催中）

忘年懇親会（17:00～） 銀水にて

##### (4) 『英学史論叢』第22号の発行

支部研究紀要『英学史論叢』第22号（通巻42号）を2019（令和元）年5月25日付で発行した。内容は次の通り。

巻頭言「楠学問か梅木学問か」（竹中 龍範）

研究論考

『用法例解英和新辞典』（1913）に見るコロケーションの認識（竹中 龍範）

英和辞典とコロケーション情報—明治末期・

大正初期に見るその萌芽—（竹中 龍範）

英学史随想

川地理策：幅広い教育活動—「親心」と「子心」—

（五十嵐 二郎）

英文学受難の時代（田中 正道）

平成30年度活動報告（事務局）

平成29・30年度 支部役員

日本英学史学会広島支部 設立趣意書

日本英学史学会中国・四国支部 会則

日本英学史学会中国・四国支部 編集委員会規程

『英学史論叢』執筆要領・『英学史論叢』標準書式

編集後記

##### (5) ニューズレターの発行

2019（令和元）年度の支部活動の様子を伝えるニューズレターを3回発行した。

『ニューズレター』No.95, 2019年5月5日

『ニューズレター』No.96, 2019年12月4日

『ニューズレター』No.97, 2020年1月31日

前年度に引き続き、年3回の発行とし、ウェブ版の閲覧可能会員に対してはメール通知のみとした。従来通り、最新号を除くバックナンバーを支部ホームページ上で公開した。

#### (6) 役員会

2019(令和元)年度の研究例会に合わせ、2回の役員会を開催した。

【第1回】2019年5月25日(土) 11:30~12:30  
於：安田女子大学

- 1) 支部総会審議内容の確認  
平成30年度活動報告  
平成30年度会計報告・会計監査報告  
令和元・2年度支部役員  
令和元年度活動計画
- 2) 令和元年度第2回支部研究例会について

【第2回】2019年12月14日(土) 11:30~12:30  
於：津山洋学資料館

- 1) 令和元年度活動報告
- 2) 令和2年度活動計画
- 3) 支部総会・研究例会規程について

## 2. 令和元年度会計報告・会計監査報告

収入の部	
繰越金	483,637
年会費	87,000
紀要掲載料	13,000
寄付金	3,000
補助金	14,000
ゆうちょ銀行利子	2
収入合計	600,639

支出の部	
通信費	10,888
印刷費 (紀要, ニュースレター)	56,720
会場費	15,000
事務費	972
事務用品	238
支出合計	83,818

次年度繰越金	516,821
--------	---------

以上、ご報告申し上げます。

2020年5月25日 会計担当理事 鉄森令子 ㊟

各位

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類及び領収書等により監査いたしました。

その結果、会計報告の通り、全て適正、正確に会計処理ができていることを確認いたしました。

以上報告いたします。

2019年5月26日 会計監査 平本 哲嗣 ㊟  
会計監査 野村 勝美 ㊟

## 3. 支部総会・研究例会規程について

### 【日本英学史学会中国・四国支部総会規程】

1. 日本英学史学会中国・四国支部（以下、本支部という）の総会は、支部長の招集により、毎年度1回これを開催する。緊急議題が上程された場合には、臨時にこれを開催することがある。
  2. 本支部会則の規定により、総会を以て本支部の最高議決機関とする。
  3. 総会の議題は、審議事項、ならびに報告事項とし、審議事項は、前年度活動報告、当年度活動予定、会計決算報告の承認、及びその他を、報告事項は、前年度活動報告、当年度活動予定、会計決算報告、会計監査報告、及びその他をそれぞれ取り上げる。なお、その他の審議事項、報告事項の内容は時宜による。
  4. 総会の議事進行のために議長を置く。議長は、当日の参加者のうちから役員会構成員を除く本支部会員中より1名を選任し、支部長がこれを委嘱する。
  5. 審議事項については、拍手多数を以て承認されたものとする。
- 【附 則】 本規程は、2020年5月30日に制定し、同日より施行する。

### 【日本英学史学会中国・四国支部研究例会規程】

1. 日本英学史学会中国・四国支部（以下、本支部という）の研究例会は、毎年度2回開催するものとし、その第1回は5月の第4土曜日、第2回は12月の第2土曜日に開催することを基本とする。
2. 年度第1回の研究例会は、広島市、もしくはその近辺に、第2回研究例会は、これ以外の中国・四国地方の適宜の場所に会場を設けることとする。
3. 研究例会において研究発表を行うことができるのは、本支部会員であって、その前年度までの会費を完納し、且つ、発表時まで当該年度の会費を納入している者とする。ほかに、日本英学史学会本部会員で本支部会員でない者の研究発表については、その前年度までの本部会費を完納し、且つ、本支部

における発表時までに当該年度の本部会費を納入している場合に、発表申し込み状況を勘案してこれを認めることがある。なお、日本英学史学会の他支部会員で、支部のみに所属する者については、本支部への入会手続きを行い、発表時までに当該年度の会費を納入している場合に本支部会員として研究発表の資格を与えられる。

4. 研究発表の内容は、日本英学史の研究に資するもので、いかなる形であれ未発表であることが求められる。

5. 各回の研究例会においては、研究発表件数は2件とすることを基本とする。これを3件まで認めることがある。これ以上の発表希望がある場合には、会場を複数室とすることがある。また、特別講演、シンポジウム等の特別企画を組む場合には、研究発表件数に制限が加えられる。

6. 研究発表時間は、2件の発表の場合、それぞれ、質疑応答20分を含んで70分とする。発表件数が3件となった場合、及び特別企画が組まれた場合の発表時間は、その都度、適宜調整する。

7. 研究発表の希望者は、各回の研究例会開催の3ヶ月前の同日から2か月前の同日までの間に、本支部事務局に発表申し込みを行う。その際には、(1) 発表者の氏名・所属、(2) 発表題目、(3) 発表概要(100~200字程度)、(4) 使用予定機器の有無と種類を添えることが求められる。

8. 研究発表に係る資料については、発表者において30部を用意するものとする。

9. 研究例会において研究発表を行った場合には、これを本支部研究紀要『英學史論叢』、もしくは本部紀要『英学史研究』に投稿することを原則とする。

本支部会員で本支部会員でない者が研究発表を行った場合は、これを本支部の『英學史論叢』に投稿する権利が与えられる。

10. その他必要な事項は、理事会において決定する。  
[附 則] 本規程は、2020年5月30日に制定し、同日より施行する。

#### 4. 令和2年度活動計画

○令和2年度総会・第1回研究例会

\*コロナウイルス感染拡大により、本年度総会についてはメール審議にて行い、第1回研究例会については中止の可能性を含んで延期とすることを役員会決定した。(その後、役員会のメール審議にて第1回研究例会の中止を決定した。)

○令和2年度第2回研究例会

\*令和2年12月12日(土)の日程にて、松山大学、もしくは岡山理科大学今治キャンパスを候補として検討したが、コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる開催とすることを役員会のメール審議で決定した。

○『英學史論叢』第23号の発行

\*調整中であつたが、12月12日発行予定で準備中。

○ニューズレター

\*年度内にNo.100まで3号の発行を予定していたが、例会の中止を受け、次の通り変更する。

No.98 (本号)

No.99 (2020年1月発行予定)

## 中国・四国支部事務局より

### ≫ 年会費納入のお礼とお願い

お願いが遅れておりましたが、今年度の会費(一般3,000円、学生2,000円)をご納入くださいますよう、よろしくお願ひいたします。『英學史論叢』第23号に払込用紙を同封いたします。(振込手数料をご負担くださいますようお願いいたします。)

#### ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合

(口座番号) 01360-9-43877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

#### 他の金融機関から振込む場合

(店名) 一三九(伊サキユ)店(139)

(口座番号) 当座 0043877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

### ≫ 紀要の配付と販売について

研究紀要『英學史論叢』は、会員の方へ一部ずつお送りします(研究論考・研究ノート執筆者には所定の部数をお渡しします)。最新号の追加やバックナンバーをご希望の方には、一部1,000円(非会員1,500円)にて販売いたします(郵送料込)。詳細は事務局までお問合せください。バックナンバー収載の研究論考等のタイトルは、支部ウェブサイトにてご確認いただけます。

『英學史會報』『英學史論叢』所収論考一覧 URL

<http://tom.edisc.jp/eigaku/bulletin/eigakushi-kaihoronso.htm>

## 『英學史論叢』 執筆要領

1. 『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
2. 研究論考・研究ノート、その他のものとも、標準書式に従った完全原稿をパソコン等を用いて作成し、プリントアウトして提出するものとする。執筆者による校正は行わない。
3. 研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および全国大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出するものとし、正本1部には著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せる。
4. 研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
5. 掲載決定後の最終原稿は、修正を求められている場合はそれに対応した上で、プリントアウトしたもの及びデジタルデータを提出する。原稿は提出されたものをそのまま印刷するものとし、したがって、執筆者による校正は行わない。
6. 研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。但し、ページ数超過の場合は、超過分について1ページ当たり1,000円を負担する。
7. その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および編集委員会の執筆依頼によるものとし、いずれも原則として2ページ以内とする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。

## 『英學史論叢』 標準書式

1. 用紙はB5判白紙を用い、上部および下部に25mm、左右に20mm、それぞれ余白をとる。
2. 本文は、10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。フォントは、和文は明朝体、欧文はCenturyを用いる。和文中の読点は「、」（全角コンマ）とし、和文・欧文を問わず、英字・数字はすべて半角文字とする。
3. 本文第1ページに論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは18～22ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。第1ページには、タイトル、執筆者名に続いて、30行を本文（見出しを含む）にあてる。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
4. 本文中の見出しについては前節との間を1行アキとし、番号を付してゴシック体とする。但し、見出し中に欧文が含まれる場合にはそのフォントをArialとする。
5. 注は、尾注とし、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
6. 参考文献は論文末に一括して示す。

## >> 『英學史論叢』第24号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第24号(2021年5月発行予定)の投稿論文を募集します。

研究論考, 研究ノート, 英学史随想, 英学史時評, 書評等, 会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

原稿提出締切 **2021年2月20日** (消印有効)

・ご投稿に際しては, 今回のニューズレター p.5に掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。

次のウェブサイトにも掲載されています。

<http://tom.edisc.jp/eigaku/yoryo.pdf>

・標準書式にそったテンプレートファイルをご希望の方は, 事務局までお知らせください。

メール: [eigaku@tom.edisc.jp](mailto:eigaku@tom.edisc.jp)

・研究論考・研究ノートは, 正副計3部をお送りください。正本1部にのみ著者名を明記し, 副本2部には著者名を伏せてください。

・英学史随想, 書評等は1部お送りください。

## >> 2021年度第1回研究例会 発表者募集

来年度の支部総会, ならびに第1回研究例会は, 2021年5月29日(土)に開催の予定です(会場は未定。オンラインとなる可能性もあります)。

研究例会での発表を希望する方は, 次の4点を明記の上, 事務局までお申し込みください。

- (1) 発表者の氏名・所属
- (2) 発表題目
- (3) 発表概要(100~200字程度)
- (4) 使用予定機器の有無と種類

研究発表は, 発表50分, 質疑応答20分, 合計70分間を標準としています。

研究発表申し込み 受付期間  
**2021年2月21日(土)~3月30日(月)**

## 英学史情報ひろば

◇保坂芳男「山口県に勤務した外国人講師のキャリア形成に関する研究: 東日本での展開に焦点をあてて」『英学史研究』53, 49-67. (『英学史研究』第53号: 2020年10月1日発行)

◇保坂芳男「萩中学校の英語教育について」(山口県立萩高等学校創立150周年記念講演, 萩市総合福祉センター多目的ホールにて, 2020年10月18日)

◇小泉 凡「ハーン来日130年に思う」『山陰中央新報』2020年4月4日(疫病の様子を描くハーンについて, 「伝染病と人々 冷静に観察」「行動, 心情見極め肝要」といった中見出しの付された記事。このほか, 小泉先生は小泉八雲記念館 facebook “Lafcadio Hearn Memorial Museum” において, 「Stay home で教育」(5月5日), 「八雲がみた松江のコレラ流行」(5月23日)など, コロナ禍の今からみたハーンの姿を【館長のひとりごと】に綴っておられます。

<https://www.facebook.com/hearnmuseummatsue/>

◇菅 紀子「英学史散策 宇和島市立伊達博物館」『日本英学史学会報』149, 5. (『日本英学史学会報』No.149: 2020年5月1日発行)

◇田中正道『草枕』と『新青年読本 三』『漱石と広島』の会 会報』10, 2-3. (『漱石と広島』の会 会報』第10号: 2020年9月1日発行)

◇上杉 進「大学入試改革の二つの目玉, 頓挫! 等々: 民間英語試験導入と国語・数学の記述式試験導入見送り」『LRT 研究紀要』7, 22-32. (『LRT (Let's Read and Talk) 研究紀要』第7集: 2020年3月発行, 英語教育を語る会)

◇江利川春雄(監修)『英語教育1936~1947年刊』(全8巻+別巻, [解題] 江利川春雄, 上野舞斗) 第1回5巻は2020年11月発行, 第2回3巻+別巻は2021年4月発行予定, ゆまに書房

◇平本哲嗣「日本の英語教育における政策起業家としてのエドウィン・O・ライシャワー」『日本英語教育史研究』35, 1-22. (『日本英語教育史研究』第35号: 2020年5月10日発行)

## 日本英学史学会 中国・四国支部 令和2年度 第2回 (通算82回) 研究例会のご案内

日時： 2020年12月12日(土) 13:30 オンライン受付開始  
方法： オンライン会議システム Zoom による開催  
参加費： 会員、非会員とも無料

本年度第1回研究例会は中止となりましたが、第2回(通算第82回)研究例会を、12月12日(土)、オンラインにて開催いたします。初のオンライン開催となる今回の例会では2件の研究発表が予定されています。ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

研究例会のあとには、こちらも初となるオンライン忘年会を企画いたしました。こちらの方へも多数のご参加をお待ちしております。

開会行事 (14:00~14:10) 支部長挨拶 竹中 龍範 (元 香川大学)

研究発表(1) (14:10~15:20)

### 菊池武信と佐藤喜峰について

安部 規子 (久留米工業高等専門学校)

本発表では、日本人のための英語発音の手引書である『英語発音秘訣』(1886)の著者菊池武信と『天路歷程』の邦訳に関わった佐藤喜峰に焦点を当てる。菊池は英学者というより基督教信仰に人生を捧げた人物であったが、受洗を始めとして不明な点も多かった。同郷の佐藤喜峰も上京し、基督教を信仰した。佐藤と菊池、さらに築地の宣教師ヤングマンとの関係や社会活動について、佐藤の子孫森晴彦氏の資料も紹介しながら、新たに明らかになったことを報告したい。

研究発表(2) (15:40~16:50)

### Basic English と広島英語教育

馬本 勉 (県立広島大学)

1930年に発表された Basic English は早くから日本に紹介され、様々な訳書、解説書、論考などが出版されてきた。これらの執筆者の中には、広島にゆかりのある人物が少なくない。本発表では、1930年代を中心とする文献調査をもとに、広島ゆかりの人物が Basic English にどう関わり、それをどう評価していたかを探ることを通じて、日本における Basic English 普及史の一端を明らかにしたい。

閉会行事 (16:50~17:00) 副支部長挨拶 松岡 博信 (安田女子大学)

忘年懇親会 (17:30~19:00) オンラインで開催 (参加自由。飲み物や食事は各自準備)

### オンライン研究例会・忘年会 参加申し込みについて

12月10日(木)までに、電子メールにてお申込みください。(メールアドレス [eigaku@tom.edisc.jp](mailto:eigaku@tom.edisc.jp))  
後日、研究例会・忘年会参加用の URL (アクセス用アドレス) をお送りします。

## 英学史情報ひろば

(p.6からの続き)

◇河村和也『語学教育』ものがたり(1)~(19)  
『語研だより』360(2019年5月号)~378(2020年11月号)(連載中)

- (1) 時代とともに:『語学教育』の生い立ち  
360, 3 (2019年5月)
- (2) 名物教授を出前:第一回英語教授実地指導  
講習会 361, 4 (2019年6月)
- (3) 戦時下の「英語人」のことば:丸山學の文章  
を読む(1) 362, 5 (2019年7月)
- (4) 戦時下の「英語人」のことば:丸山學の文章  
を読む(2) 363, 4 (2019年8月)
- (5) 語学教育研究所の新発足  
364, 9 (2019年9月)
- (6) 英語の教育を守るために  
365, 4 (2019年10月)
- (7) 日本人の英語を教材に  
366, 4 (2019年11月)
- (8) 『語学教育』流「和文英訳教室」(1)  
367, 4 (2019年12月)
- (9) 『語学教育』流『和文英訳教室』(2)  
368, 5 (2020年1月)
- (10) 古くて新しい問題(1) 369, 6(2020年2月)
- (11) 古くて新しい問題(2) 370, 3(2020年3月)
- (12) 表紙さまざま 371, 4(2020年4月)
- (13) 盲目の英学者が見たもの(1)  
372, 5 (2020年5月)
- (14) 盲目の英学者が見たもの(2)  
373, 4 (2020年6月)
- (15) 日本語の音声研究の立場から(1)  
374, 4 (2020年7月)
- (16) 日本語の音声研究の立場から(2)  
375, 4 (2020年8月)
- (17) 「教育の詩人」の若き日のまなざし(1)  
376, 4 (2020年9月)
- (18) 「教育の詩人」の若き日のまなざし(2)  
377, 6 (2020年10月)
- (19) 「教育の詩人」の若き日のまなざし(3)  
378, 4 (2020年11月)

◇馬本 勉「倉田百三と外国語」倉田百三文学館文化  
講演会, 2020年1月26日

※情報をお寄せください。よろしくお願ひします。

広島英学史の周辺(64) コロナ禍の今, 苦しんでおられる皆様にお見舞い申し上げるとともに, 日々奮闘しておられる方々に心より御礼申し上げます。▼前回のニューズレターをお届けしたのは今年の1月末でした。約10か月ぶりの発行となります。この間, 学会の歩みが一時ストップしてしまいましたことをお詫びいたします。▼3月に全国の学校が休業となり, 卒業式や入学式をはじめ, 学校行事の中止や縮小が相次ぎました。多くの大学は始業を5月の連休明けとし, 前期は「原則オンライン」の授業となりました。松岡先生が巻頭エッセイに書かれたような授業が全国各地の大学で展開されたのです。▼日常の生活も激変しました。マスクが店頭から姿を消し, ドラッグストアの前に並んだこともあります。エタノールも, ハンドソープも, どこで手に入れたらよいか途方に暮れたものでした。私はせっかく習慣となったジム通いをやめ, 夜の会食は今なお自粛を続けています。▼夏休みが明け, いわゆる対面授業が増えましたが, 多くはオンラインを継続中です(私の「対面授業」はわずか1日, フィールドワークで宮島へ出かけたときだけです)。ただ, 同じオンラインでも, 後期は少し様子が違います。時間を選ばず課題をこなす「オンデマンド」からスタートした前期の私は, 「オンラインだけどライブ感」を謳い, YouTuberのまねごとを始めました(ネット上で私の動画を探してみてください)。「ライブ授業」が中心となった今, 「対面より質の高いオンライン」がテーマです。対面でないと難しいと思われたグループディスカッションも, オンラインで十分可能な上, チャットと併用しながらより効果的に進めることができます。「デジタル・ネイティブ」の学生諸君に負けないよう, とにかく毎回90分, 気を抜くことができません。▼授業だけでなく, 学会活動もオンラインが主流になっています。今回, 私たちの研究例会も初めてオンラインで開催します。オンラインのメリットを感じる会になればと願っています。ぜひご参加ください。どうぞよろしくお願ひします。(馬)

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.98

2020年12月5日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中 龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 馬本研究室内

電話: 0824-74-1725 (研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.98 December 5, 2020